

# 教育委員コラム

## 教育委員リレーコラム

### 『慈しみの心を伝える』

教育委員 菅原誓之

昨年10月、漫画家・作詞で有名な「やなせたかし」さん、が亡くなられたのは皆さんもご存じでしょう。有名な代表アニメに「アンパンマン」があります。子供達だけではなく大人になっても一度はご覧になったアニメではないでしょうか。かなり前の事になりますが、テレビの取材や何かで「やなせたかし」さんが、インタビューを受けている映像を見た時のことです。インタビュアーの方がこの様な質問をされていました。『やなせさんは、どうしてアンパンマンというようなアニメを描かれようと思ったのですか?』という質問でした。この問いにやなせさんは、こう答えていらっしゃいました。『私はこのアニメーションを通じて、子供達に慈しみの心を伝えたかったのです・・・アンパンマンは困り、苦しんでいる人に対し、自分の身を削って相手に元気を与えるのです』・・・というような内容でした。ともすると私たちは自分のことばかりを優先し、他人の事は二の次、となりつつある昨今のような気がします。そのことを「慈しみ」という言葉の中から、「アンパンマン」という実体化したアニメに置き換え、わかりやすく表現してくれたものだと感じました。



また、作詞された有名な歌に「手のひらを太陽に」があります。(以下歌詞)

ぼくらはみんな 生きている 生きているから 歌うんだ

ぼくらはみんな 生きている 生きているから かなしいんだ

手のひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮(ちしお)

ミミズだって オケラだって アメンボだって みんな みんな生きているんだ 友だちなんだ

この歌の中では人間関係だけの「慈しみ」とらわれず、動物であっても生きとし生けるものは、すべて平等な命をもって生きているということが歌われています。自分にも真っ赤な血が流れているように、「ミミズやオケラやアメンボ」という子供達に親しみのある小さな虫でも、一生懸命に生きているということがこの歌によって考えさせられました。

私の職業上の話ですが。(思想や意思は個人的なものとして聞いて下さい。) 仏教発祥の地「インド」と「日本」では教育の中でとらえ方の違いがある、と聞いた事があります。その違いがどういうものかという、『日本では、人に迷惑をかけてはいけない』と教わってきたと思います。しかし、『インドでは、私たちは人に迷惑をかけなければ生きていけないもの、だからお互いの迷惑を許し合いましょう』という教えだそうです。「迷惑をかけない」という日本の素晴らしい道徳心と「迷惑をかけなければ一人では生きて行けない自分、迷惑をかけられても互いに許し合いましょう」というインドの仏教心。共に比べられない教育的な理念ですが、どこかで融合されれば素晴らしい事だと感じました。「慈しみの心」を感じるということは、もしかすると日常生活の中で、あちこちに見たり聞いたり受け取る事が出来るのかもしれませんが。自分自身も「慈しみの心」を伝え、実践できるような人間になって行きたいと思ったことです。

(次回のリレーコラムは小林教育長です)

### 弟子屈町教育委員会

〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場  
電話：015-482-2945 HP:<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>



# 教育あっちこっち情報

## 桜木紫乃さんと「挽歌」のお話をしました！！

BS朝日の旅番組で、原田康子の「挽歌」を巡る撮影が5月に川湯でありました。

私は光栄にも、昨年直木賞を受賞された釧路出身の桜木紫乃さんと川湯温泉の足湯につかりながら「挽歌」について話をする機会を与えられました。「挽歌」は桜木さんが作家を目指すきっかけとなった本だということで、挽歌の舞台となった釧路の街や湿原、川湯温泉などを桜木さん自身が紹介するという番組でした。

取材を引き受けたものの、私には本の内容さえうろ覚えで、早速図書館で「挽歌」を借りてきました。図書館の本は昭和31年出版と貴重なもので、表紙の「挽歌」の字は伊藤整によって書かれたものでした。足湯での間、撮影の方にお貸ししましたが、放送の中でも効果的に映っていました。また、映画「挽歌」の久我美子さん撮撮影隊が欣喜湯（当時川湯ホテル）に宿泊していたことも知りました。川湯温泉に暮らし、今回このような機会を得て「挽歌」は私にとって大切な本となりました。

教育委員 榎本 悦子



## 札幌の小学校運動会

今年5月末札幌の運動会を見に行きました。

弟子屈では、5月の開催はあまりないようですが、当日は天気も良く暑い程でした。生徒数530名程の大規模校です。朝の場所取りは、子ども達がクジ引きで予め割り振られた位置を決めてくるので、朝は整然としていました。ラジオ体操が終わると、応援合戦が始まり紅組と白組の応援団長がそれぞれ正装し、挑戦状と応戦状を蚤カウ風に読み上げます。そのしぐさがとっても可笑しく、会場は笑いの渦でした。徒競争など子ども達は、とても一生懸命でした。全校生徒による“よさこいソーラン”もあり、それぞれだなあと感じましたが、団体競技はクイズ形式を取り入れたものが多かったです。競技の度に自分の子どもを求めて、移動するカメラマンが大勢でした。どこも皆一生懸命の応援風景でした。

教育委員長 小澤 重



## 素晴らしい演奏に拍手！

7月5日、弟子屈中学校吹奏楽部による「サマーコンサート」が開かれました。今年は、綺麗に整備されたグラウンドと校舎の間にある「憩いの広場」で初めて行われました。この日は晴天に恵まれ、まさに野外コンサート日和となり、保護者や地域の皆さん・児童生徒など約100名程の方々が駆け付け、総勢29名の部員による素晴らしい演奏に耳を傾けていました。昨年に比べ部員が10名程増えたこともあって、迫力感が一段と増したように感じました。

コンサートでは各学年毎による演奏披露があり、中でも新人一年生による演奏は、緊張した面持ちではありましたが、しっかりした演奏を聴かせてくれました。7月下旬に行われる吹奏楽コンクールで演奏される曲「セドナ」も披露され、皆さんからたくさんの拍手が送られていました。

7月26日に開催された、その吹奏楽コンクールの結果、中学校C編成部門で「金賞」を獲得しましたが、残念ながら北海道大会出場は叶いませんでした。

しかし、2年連続の「金賞受賞」は素晴らしいと思います。これからも大いに励んでほしいものです。期待しています。

教育長 小林 俊夫



## 職業について学ぶ

7月23日、弟子屈高校で2年生を対象とした「職業説明会」が開催された。将来職業に就く前に、どんな職種があり、そのためにはどんな資格が必要か？高校時代にどんな事をやっておけばよいのか？そんな生徒の疑問に答えるために町内外から十数社が駆け付けた。身近な問題として仕事を捉える良い機会でしたね。

職務代理 藤原 将男



## 「摩周丘幼稚園運動会」

町内各学校の運動会も最終にさしかかった7月、摩周丘幼稚園の運動会を拝見させていただいた。

私事ではあるが、子供達が8年間続けてお世話になっていた懐かしみのある園庭である。

当日は最高の天候に恵まれ、父母、祖父母や親覧に招かれた「あったかや」のお年寄りの方々も、我が子・孫同様にあたたかな拍手をおくっていた。中でも全園児による紅白リレーでは、2歳児からスタートし年長組までバトンが次々渡っていく。「逆走してしまう子」「友達が来るのを待って走る子」……。笑いあり、歓声ありのリレーであった。

印象に残ったのは、まだヨチヨチ走れない2歳児を抱っこしながら走る園長先生の姿であった。

もう一つ見ものであったのは、「思い出のグラウンド」という競技。卒園していった小学生が、各学年に分かれ徒競走する競技である。一回りも二回りも大きくなった体で、所せましと躍動的に走るスピードに、子供達の成長の早さを感じた。来年も卒園していった児童がまた一人と増えてゆくのだろう。

心温まる幼稚園運動会のひと時であった。

教育委員 菅原誓之



## \*\*\* 編集後記 \*\*\*

前回の発行からすっかり遅れてしまいました…。

さて、昨年からの屈斜路カルデラの「雲海」がクローズアップされ、ツアーも実施されるなど新たな弟子屈町の魅力が観光客の方に感動を与えています。雲海の見頃は10月末頃までのようですので、是非早起きして見てみたいものです。

次回の教育委員コラムの発行は12月を予定しております。お楽しみに…。

弟子屈町教育委員会

委員長 小澤 重  
職務代理 藤原 将男  
委員 榎本 悦子  
委員 菅原 誓之  
教育長 小林 俊夫

